

第9回 湖西市定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

開催日時 平成30年1月16日(火) 14:00~14:40

開催場所 湖西市役所2階 市長公室

委員 (出席者) 8人 (欠席者) 3人 (事務局) 5人

内 容

1 開会(事務局あいさつ)

2 議題

(1) 定住自立圏共生ビジョン【第2次】(案)について

事務局から、次期計画案の主な変更内容について説明。

- ・各種データの時点修正
- ・具体的な取り組みの修正

(質疑応答)

委員：P.35の環境など、基本目標とKPIがミスマッチというか、どういった位置づけになっているのか。

事務局：基本目標は総合計画で示している指標を持ってきている。廃棄物対策事業のKPIについては、出前講座の指標となっていてわかりにくいということもあり、ステーション可燃ごみの指標とした方がわかりやすいのではないかと担当課職員と協議した。冊子は出前講座の受講者数となっているが、委員の皆様のご了解があれば、「ステーション可燃ごみの収集量」という指標に変えたい。28年度の現況値は「9,100t」になる。目標値として32年度にこれを「8,600t」に削減していきたい。

委員長：資料1が資料2のどこに該当しているかわかりづらい。資料1の中のたとえばタクシーが入ったところや大倉戸茶屋松線の整備事業や谷上線の整備事業について資料2との整合性についてはどうなのか、資料2に触れられていないと思っっているのか。資料2のここに載っているよとか。特に新規のところはなかなかご理解のいただけないところがあるから、特にタクシーのところは知る範囲だと3月から白須賀地区でやるというのは聞いているところだが。

事務局：高齢者バス・タクシー利用料金助成事業については、委員長が言われたタクシーのデマンド事業とは違うものであるが、デマンド事業は実証実験として3月に実施するもので、次期計画の対象としていない。ここに載せているものは高齢者のバス・タクシー利用料金助成事業として載せさせていただいている。今年度まで75歳以上の高齢者の方に年間100円券を20枚補助するものでコーち

やんバスと遠鉄バスについての助成事業となっている。来年度以降はこれを拡大し、タクシーを乗れるように調整している。大倉戸茶屋松線整備事業は、ジャンボエンチャの南側あたりから国道1号バイパスの大倉戸ICまでの都市計画道路を整備する事業である。これには浜名湖西岸地区の区画整理が新幹線の南側あたりで50haを予定しており、かなり大規模な事業となるが、そのため人やものを運搬する道路として整備している。なので、大きな金額を予定したものである。鷺津駅谷上線は、駅の南側の遠鉄ストアあたりの道路になるが、ラッシュ時などかなり危ないという声をいただいているので歩道を整備して、指標についても目標値として交通事故発生件数をゼロにする事業である。

委員長：そのほかにもご意見はあるか。

委員：新居関所の前で交通事故が頻繁にあり、死亡事故も起きていて大変危険である。その信号整備など対策はあるのか。

事務局：歩道整備が不十分なところもあるし、景観として電柱が残っていることもあり、夏に県に要望し働きかけをしている。

委員：横断歩道しかないところに具体的に信号をつけてとかは。

事務局：まだ具体的な検討までは進んでいないと思うが、意見を頂いたということで今後の市政に反映させていきたい。

委員長：他にどうか。

委員：環境という視点で、P.35に環境にやさしいエネルギー普及事業というものがあるが、KPIのところでは低公害車などあるが、低公害車の普及そのものには関連自動車の補助も必要だが、それに伴うインフラ整備も並行して進んでこない。電池の技術開発だけでは追いついていかない。車が高いことも問題だが、併せて普及事業の視点の中にそれぞれの購入した人の補助にインフラ整備も加えると普及の後押しにつながるのでは。

事務局：電気自動車の充電ステーションみたいなものになると思うが、平成26年度に市内のインフラ状況について調査をしている。その中で整備の追いついていない空白地域が白須賀地域にあった。白須賀地区は国道1号が通っていたりなど交通量が多い地域になるので、平成27年度に道の駅「潮見坂」の駐車場に電気自動車充電器を設置した。最近電気自動車もかなり認知されてきているため、コンビニエンスストア、車のディーラー、ホテルなど、かなり充電器する場所が増えている。まだ市のほうでその現状がどのくらいかという数字は持っていないが、そういった社会の流れの現状や、新築の方だと家庭用コンセントをつける方もいると聞いているので、そうした状況を見極めながら市の方も政策を考えていきたい。ご意見をいただいたとおり反映できるものは反映していきたい。

委員長：他にどうか。

委員：P.48の外部人材の確保について、基本目標がNPO法人の数となっているが、

法人の数が増えていることと協働が進んでいることがイコールにはならないと思う。どれだけ実際に協働が行われたのかということやそれによってどういう効果が上がっていったかということが評価された方がいい。どういう指標がいかというとながしいが、数だけではないと思う。

事務局：基本目標は総合計画とリンクさせていることもあり、そこから指標を引っ張ってきているのでNPO法人の数となっていて、成果指標というかアウトプットになってしまっている。次回総合計画は3年後に策定するというので今後準備していくことになるが、その中ではNPO法人が市と一緒にやっていけるかというような指標を研究していきたい。

委員：NPO法人だけでなく任意団体でも地域活動を行っている様々な団体があるので、そういったところも拾っていけるといい。

委員長：他には。

委員：交通インフラについて大倉戸茶屋松線と鷺津駅谷上線はイメージがわかったが、それ以外の道路などどういった計画にしていけるのか、全体的にこういった市になるというイメージがあるといい。

事務局：全体的な道路をどうしていくかというイメージはないと思うが、以前交通事故でなくなられているお子さんもいるので、なるべく危ないという声に耳を傾けて先手を打って考えていきたい。

事務局：公共施設再配置計画というのは企画部から発信して、公共施設についてはイメージが少しずつみなさんに見えてきた。それに対し、道路、橋梁、下水、水道、それぞれの所管ごとに計画がある。その計画の具体的なものは直近3年ごとにお金を伴って事業化されていく部分になるので、3年ごとのものは内部的にはそろっているが、外に発信する段階になると予算も伴っていないので、やるかやらないかわからないものを載せることになるとみなさんに期待を持たせるだけの話になる。計画自体はそれぞれの部署で持っているが、お示しをする段階がそれぞれの部署ごとになかなか見えづらい、わからない、どう発信していくかというのは今後32年の新総合計画で、マスタープランという湖西市全体の計画もあり、都市計画道路だったり、絵を見るとどこにどういう道路がどこを走るというのはわかるが、具体的な完成についてはどういった段階でお示しするか今後の課題だと感じた。

委員：サイクルロードを浜名湖一周で造られるという話があったので、県と市の中でもどこでマッチングしてやられるか聞きたくて質問した。

事務局：都市計画道路は都市計画の像が描いてあるが事業費が伴うということがある。国のほうから橋梁については5年に1度点検をなさいと言われており、新しい道を造るよりそういった橋梁の点検や補強にお金をかけなければならなくなっており、新しい道の整備は今後難しくなってくる。

委員長：他にはどうか。特に質問もないようなので事務局にお返りする。

3 連絡事項

- ・ 2月にパブリックコメントを行い、3月に策定予定。